

子供のやる気・モチベーション・気づき

Q.

手遊びや、好きなことに夢中になり、話がきけない、準備や片づけが遅れる子どもについて。行動が早くできるようになるために、時間をはかったり、早く行動するメリットを説明したり、課題を手伝ったりしている。しかし、行動が早くできるかどうかは、子ども自身の気分ややる気で結果が大きく変化するように感じる。どのように対応したらよいのか。

A.

視覚支援、メリットの説明、手助けなど多角的にアプローチされている点が素晴らしいと思いました。これらの工夫をとおして起こった行動がどうなっているか、またその結果がどうなっているかを丁寧に観察してみることから始めるとよいですね。

環境が整い、子どもに前もって説明し合意を得られている目標行動になっているならば、目標に向かって行動できるようになることと思います。そんなときに子どもが頑張ったことに対するご褒美や楽しみを設定するとうまくいきますよ。

また、注意、集中が途切れやすいお子さんは、再び課題に集中を向けることができるよう、様々なプロンプトを使って丁寧に関わってあげることが大切になります。少しでも課題に集中できるようになることで、だんだん課題全体の見通しがつき始め、いずれ楽しめるようになってきます。根気のいる支援になりますが、サポートし、また観察。観察していれば、支援の効果が見え、他にも気づかれることがたくさんでてくることと思います。

Q.

学習面に問題はなく、指示理解も十分にできる小学4年生女兒なのですが、自分勝手な判断や振る舞いが目立ちます。今は、できるだけ注意しないようにして、本人の気づきを待っていますが、全体の流れを止めてしまうことになり、困っています。

A.

自分の行動が周囲にどううつっているか、客観的に見るのが難しいことが考えられます。困った行動が目立つ場面では、その都度正しい行動を教える必要があるかもしれません。また、状況の理解が難しく、どのように振る舞ってよいか分からないのかもしれません。言葉で言って理解しにくい場合は、活動の流れを本人がわかりやすいよう、視覚的な情報を使って説明してみてもいいかもしれません。そういう工夫を用いて望ましい行動が出た場合、ポジティブに評価してあげましょう。また、そういった行動が起こってしまう原因が分かると、困った行動を防ぐ方法が考えやすくなります。

Q.

集団場面で不適切な言動が目立つ小学 6 年生について。自信のないときに「こんなことをしても意味がない」とか、「自分はどうせできないから」などと否定的な発言をしてしまいます。活動に対しての不安や、何をしたいのか分からないのかもしれませんが。できなかつたらどうしよう、という気持ちもあるようです。本人の話を否定せずに聞いているのですが、どうすればよいのでしょうか？

A.

本人の話を否定せず受け入れている対応をされているのは、とてもよいことですね。見通しが立たずに不安がっている場合は、集団場面でどんな活動をするのか、何をやる時間なのかを、視覚的・具体的に伝えることが必要かもしれません。自信のなさや不安を表現する方法が不適切な場合は、子どもの気持ちを大人が具体的な言葉で代弁してあげましょう（表現モデルを示す）。授業に参加していること自体を評価することで、本人が結果にこだわらず、活動に取り組めるようになるかもしれません。